

人はお豆腐が喰べ度い等と笑声が溢れて和やかな情景、私の我流の家庭料理でもてなし時間の許す限り観を尽くした。

当時の宅の住いは富岡町三丁目目小樽港を一望に見おろし、うしろは小樽高商が控えてその夜景美は素晴らしく、マルセーユに次ぐという位であった。又秋には珍らしいナナカマドの赤い実が風情を添え、何とも云えぬ落着きを見た。この借家は人様の御世話で借りたが或る日、近所の奥様から家相がよくないと注意されたが余り気にもしていなかったところ、寒い冬を引越したが翌春病気に罹り里の母に来て貰いこの事を話すと心配して方位観の天眠先生を迎えた。御持参の礎石で調べられた末、便所の上の方が丁度鬼門に当たっていると云われて早速浄めて造り替えたが九年の間病人も出ず何ごともなかった。主人は御承知の通り一年に十回位東京、神戸へ出張勝ち多忙の身であったが、十年目の秋表通りに転宅した。その翌年の三月やつと東京へ帰えることが出来た。この天眠先生早稲田大学文科出身、骨相学に通じておられるので何時も何かと相談を持ちかけたものです。

或る時星占いをして貰ったが近く後年この知人三十七歳から幸運続き、今尚京都で成功されているとか「明治三十五年生男」東京で戦時中住家を物色、渋谷へ移る前、家の間取り図を詳細に書き北海道へ聞き合させたところ、この家は西北に長い建物があるから先ず良いとの返事、この建物は前の持主の物置は毀しに来る約束になっていた。これが取りのけられた六日東京最後の空襲、

盗難の懼れありと、その月に主人の父と妹が北海道見物に訪れた。日曜日に札幌へ案内し夜おそく帰宅した。夜中の寝静った頃、ふと私が目を覚ますと庭の雨戸を切る音があるので皆を起して電気をつけて見廻ったが私の方は何の被害もなかったのです。この事を早速家主さんに話すと、今朝明け方に横下の家の高田さんの洋窓から泥棒が這入り時計とお金を盗られたと云うことを聞き不気味な感じがした。別の話になりますが、ある日知人が東京から訪ねて来られた際こんな話をしたら、知人も一身上のことを是非天眠先生に見て貰い度いと云われるままに先生を呼んで来た。「あなたは東京より西の方で仕事をやる方が良い、人の下に使われる仁で無く中年一生の財をなす」と云われた。

後年この知人三十七歳から幸運続き、今尚京都で成功されているとか「明治三十五年生男」東京で戦時中住家を物色、渋谷へ移る前、家の間取り図を詳細に書き北海道へ聞き合させたところ、この家は西北に長い建物があるから先ず良いとの返事、この建物は前の持主の物置は毀しに来る約束になっていた。これが取りのけられた六日東京最後の空襲、

昭和二十年五月二十五日夜、わが家は戦火で焼けた、防空壕のものは無事だった。壕の土を主人が取りのけて第一番に私が這入った。主人も二人の娘もだまって見ていた。

小樽に居た時分八百屋のおばさんが泥棒なんか人につくもので家にくものでないと云うたことも理があるようにも思われる。その後私は家相の話になると天眠先生の受け売りを喋り口っている。今も住居は西北に物置きと清い水の湧く井戸が昔の姿でのこつている。今時方位等の話は今の若き方達からは消えてゆくかも知れないが、易学は昔から天地の心理、中国から伝った述べるところの易经は決しておろそかにはならないと思われる。之は気付いた私の実話として御笑い草に書き記したまでです。

○記 松井 元氏 未亡人

映画 一番星から

今村頼吉

昭和五十二年四月四日(月曜日) 年十二月十三日、享年七十二歳)にNHK連続TV小説「いちばん星」が始った。図らずも鈴木商店とはない、甦れあの千夜子の懐しが挫折してから丁度五十年目である。原作は結城亮一の「あゝ、東京行進曲」である。雪深い山形県天童から上京した佐藤千夜子(初め高瀬春奈が演じたが病氣となり六月十三日より五大路子が代役を務めた)が一躍日本最初の流行歌手第一号になった丁度昭和三年(日商設立は同年の二月八日)で野口雨情、中山晋平、西条八十らの努力によって新民謡、後の流行歌が誕生した。佐藤千夜子は最初のスターとしてデビューした。昭和初期に「波浮の港」「東京行進曲」赤い靴穿ていた女の唄「旅人の唄」「紅屋の娘」当世銀座節「影を慕いて」古賀政男作詩作曲「愛してちょうだいネ」などで一世を風靡したことであった。この千夜子の人生は誠に波瀾にとみ失意のうち哀れ閉じたのだが(昭和四十三

年十二月十三日、享年七十二歳)にNHK連続TV小説「いちばん星」が始った。図らずも鈴木商店とはない、甦れあの千夜子の懐しが挫折してから丁度五十年目である。原作は結城亮一の「あゝ、東京行進曲」である。雪深い山形県天童から上京した佐藤千夜子(初め高瀬春奈が演じたが病氣となり六月十三日より五大路子が代役を務めた)が一躍日本最初の流行歌手第一号になった丁度昭和三年(日商設立は同年の二月八日)で野口雨情、中山晋平、西条八十らの努力によって新民謡、後の流行歌が誕生した。佐藤千夜子は最初のスターとしてデビューした。昭和初期に「波浮の港」「東京行進曲」赤い靴穿ていた女の唄「旅人の唄」「紅屋の娘」当世銀座節「影を慕いて」古賀政男作詩作曲「愛してちょうだいネ」などで一世を風靡したことであった。この千夜子の人生は誠に波瀾にとみ失意のうち哀れ閉じたのだが(昭和四十三

千夜子の歌だけは永遠に滅びることはない、甦れあの千夜子の懐しい歌声。さて話は本筋に戻るとして、昭和二年四月四日鈴木商店整理に入ると、和二年四月四日鈴木商店の敷地や三井物産初め大手商社の敷地がタタ銑鉄輸入継承に躍起となつていたがタタ製鉄会社は依然として代理権は鈴木にありとして鈴木指図通り積出しを行なつていて取引中止したる鈴木商店も整理業務の一つとして銑鉄の受渡しは支障なく行なつていたのである。これに従事したのは楓、堀口、今村、国沢、土居の五名であった。

多賀二夫氏は鈴木商店の孟買支店長であったので非常に苦境に立たれた。氏の語る処に依れば「最も有力な味方は横浜正金銀行孟買支店とタタ社の総支配人のJ.C.K.・ピイターソンだった」と。同氏は唯一の外人幹部でタタ社長の信任も厚く、鈴木商店のよき理解者であった。昭和二十年五月二十五日夜、わが家は戦火で焼けた、防空壕のものは無事だった。壕の土を主人が取りのけて第一番に私が這入った。主人も二人の娘もだまって見ていた。小樽に居た時分八百屋のおばさんが泥棒なんか人につくもので家にくものでないと云うたことも理があるようにも思われる。その後私は家相の話になると天眠先生の受け売りを喋り口っている。今も住居は西北に物置きと清い水の湧く井戸が昔の姿でのこつている。今時方位等の話は今の若き方達からは消えてゆくかも知れないが、易学は昔から天地の心理、中国から伝った述べるところの易经は決しておろそかにはならないと思われる。之は気付いた私の実話として御笑い草に書き記したまでです。

豊かな経験—すぐれた技術



帝人製機

大阪本社 大阪市東区北浜3-7-3 ☎(202)0371
東京本社 東京都中央区銀座6-14-4 ☎(543)4611

営業 品目 化粧機械 航空機部品 油圧機器 工作機械 産業省力機械

神戸新聞「海鳴り止まず」に就いて

待望されていた「海鳴り止まず」第一回の発行は意外の好評を博し諸兄の御手許にも多数お求め願ったことと存じます。更に愈々第二輯の刊行準備に取りかかり、来る四月上旬には上梓の予定であります。之には鈴木商店の今迄に知られなかった重要な面が解説も巧みに網羅されており、めで引き続き御購読下さるよう御勧め致します。実はこの企画の最初から小生の手許に保管されている鈴木商店の資料全部に過去の体験談の思いつきを提供して参ったのですが、今回計らずも社から小生に多額の推薦を賜りましたので茲にそのまま辰巳会に寄贈させて頂くことに致しました。

(柳田)

タタ銑鉄の受渡業務を引続き日商鉄鉄は新会社日商の基礎を築くに重要な取引として継承された。これらの銑鉄は上記の木村商事のほか関西では神戸製鋼所、川崎造船所(現川崎製鉄)、久保田鉄工所、栗本鉄工所、関東では隅田川鉄工所、九州では戸畑製鋼工場、草野商店等に製鉄用あるいは鋳物用(鉄管用をも含む)として大量に納入されたのであった。

愈昭和三年二月八日長らく待望された日商株式会社設立せられた。資本金一百万円全額払込みで一部は主人社員も株式を持たされた。私も最低の五株(金五百円)持ったのである。重役は取締役社長長下坂藤太郎、常務取締役(代表)永井幸太郎、取締役高畑誠一、同北浜留松、同多賀二夫、同下坂八郎、同和久宗七、監査役佐々木義彦、同志田正雄であった。本店は大阪市北区中之島江商ビルディング四階で、支店—神戸、東京、出張所—上海、孟買、ロンドン、テキサス、に在った。

本店鉄材部には部長楓英吉、課長堀口菊蔵、今村頼吉、国沢敏馬、土居増喜の五名。東京支店は課長伊藤寛平の陣容で担当していた。最も重大な業務は前述の如く鈴木商店の残務整理中に代行していた

タタ銑鉄の受渡業務を引続き日商鉄鉄は新会社日商の基礎を築くに重要な取引として継承された。これらの銑鉄は上記の木村商事のほか関西では神戸製鋼所、川崎造船所(現川崎製鉄)、久保田鉄工所、栗本鉄工所、関東では隅田川鉄工所、九州では戸畑製鋼工場、草野商店等に製鉄用あるいは鋳物用(鉄管用をも含む)として大量に納入されたのであった。

愈昭和三年二月八日長らく待望された日商株式会社設立せられた。資本金一百万円全額払込みで一部は主人社員も株式を持たされた。私も最低の五株(金五百円)持ったのである。重役は取締役社長長下坂藤太郎、常務取締役(代表)永井幸太郎、取締役高畑誠一、同北浜留松、同多賀二夫、同下坂八郎、同和久宗七、監査役佐々木義彦、同志田正雄であった。本店は大阪市北区中之島江商ビルディング四階で、支店—神戸、東京、出張所—上海、孟買、ロンドン、テキサス、に在った。

本店鉄材部には部長楓英吉、課長堀口菊蔵、今村頼吉、国沢敏馬、土居増喜の五名。東京支店は課長伊藤寛平の陣容で担当していた。最も重大な業務は前述の如く鈴木商店の残務整理中に代行していた

謹賀新年

昭和53年元旦

<p>日塩株式会社 安東 浄 東京都千代田区丸の内二ノ六ノ二 電話(〇三)二八一三二〇二(代)</p>	<p>中央毛織株式会社 秋元 鷹男 〒四六七 名古屋瑞穂区春山町六一八 電話(〇五二)九八一七二二</p>	<p>元市立神戸美術館長 荒尾 親成 〒六五七 神戸市灘区畑原通三丁目五一四 電話(〇七八)八七一八二九二</p>	<p>今村 冬二郎 〒六六一 尼崎市塚口町四丁目七一六 電話(〇八)四二二一五三七五</p>	<p>今村 頼吉 〒六五五 神戸市垂水区五色山六丁目二一六 電話(〇七八)七〇五一二二二六</p>
<p>(株)三喜商会 石田 俊一 〒二二八 相模原市東林間四一五一二二</p>	<p>荻崎 實 〒六五八 神戸市東灘区住吉台二一番一七号 電話(〇七八)八二二一九八〇一</p>	<p>池武 猪 〒六五五 神戸市垂水区大町三一五 電話(〇七)七〇七二七五四</p>	<p>井上好 正 〒六六一 尼崎市塚口町二丁目三六一一</p>	<p>岩橋 貞良 〒六四一 和歌山市東高松二丁目一七七 電話(〇七三四)二三四〇五七</p>
<p>日新鋳産株式会社 池田 政雄 〒六五一 神戸市東灘区内町二丁目一〇二八 電話(〇七八)二四二二二二二</p>	<p>博多総鎮守 柳田神社 名誉宮総代 石野 昔士郎 〒八一〇 福岡市博多区中洲五丁目一六一六 電話(〇九二)二八二一六九八</p>	<p>宇津木 亥一 〒六〇五 京都市東山局区内芳野町一〇八 電話(〇七五)五五一二四〇五</p>	<p>帝人殖産株式会社 煙石 隼人 取締役社長 東京 東京都千代田区霞ヶ関二丁目四一四 本社 電話(〇三)五〇六四九〇一 大阪 大阪市西区江戸堀二丁目五三 本社 電話(〇六)四四三二五六七〇</p>	<p>小野 三郎 〒六六四 自宅 伊丹市鈴原町二ノ一〇 電話(〇七二七)八一二五三七</p>



五大路子さん

文を貰っていたのである。そして型鋼は独乙製鋼の大坂支店に注文し、汽缶用鋼材類はロンドン出張所へ注文していた。

船体用の鋼板は既に八幡製鉄所で充分賄い得る状態になっていたが日商は鈴木商店の件で八幡製品は一切取扱えなかったのである。

屑鉄(スクラップ)は差詰め孟買出張所(後に支店)を通じて印度物(タタ製鉄初め鉄道の屑鉄)を輸入して神戸製鋼や川鉄等に多量納入した。後年アメリカやカナダや豪州物までも輸入して大いに取引を拡大したのである。

かくして楓、堀口両氏は関西、関東、九州の大口取引先廻りに大活躍して実績を着々拡大して行ったのである。

私は上記二造船所廻りと鉄材部全体の通信と見積りに従事した。孟買支店とロンドンの宮口俊二郎氏宛の発信並に入電を鈴木時代の特別英文電信暗号帳を使用し翻訳した。国沢君か土居君が必ずそれを

チェックしたのであった。

国沢君は受渡業務と経理を担当し、土居君は専ら経理に従事していた。

極く小人員で斯くの如く大量の事務に従事していたため一同非常に多忙を極めていた。毎夜残業の連続であった。決算期には、国沢、土居の両君は徹夜することも度々あった)この残業をしながら国沢、土居の若手は気分一新のためによく鼻歌を唄っていた。それが今から考えると殆んどが「いちばん星」に出て来る佐藤千夜子の唄ったヒット曲ばかりで「波浮の港」とか「東京行進曲」とか「影を慕いて」とかであって誠に懐しく想い出深いメロディーである。

仕入先は鉄鉄と屑鉄は勿論、孟買出張所で汽缶用鋼材はロンドン出張所で、造船用型鋼は独乙製鋼KK大阪支店であった。ヘルムダッハ(Helm daeh) 支店長、坂田営業課長とはよく播磨造船所や大阪鉄工所に商談に足を運んだものであった。

その後、独乙チッセン(Physen)製鉄会社の出張員ワイズ氏(Weis)とクルップ(Krupp)製鉄出張員のエンデルライン氏(Endelrain) が来社して独乙製鋼より買付けていたワイヤロット

(Wine Rod) (製線材と製釘材)の商売に割込んで来た。それまで薄鉄板と線材を多量に独乙製鉄より買付けて日本垂鉛(鋼)を初め製線、製釘、鍍金工場へ納入していた。当時は未だ八幡製鉄以外には日本では薄鉄板もワイヤロットも製作していなかったのである、ここに目を付けて川鉄は薄鉄板を神戸製鋼はワイヤロット(以下線材と称す)の製作に取組んだのである。早速楓氏はその取扱方を交渉して成功したのである。殊に神戸製鋼の線材の販売は日商で一手引受(独占)けることに成った。

川鉄は次第に特殊な薄鋼板も製作する様になり電気鉄板(ダイナモ直流発電機用とモーター用)電動機用)も製作するようになったので楓氏は早速鳥羽電機(現神戸電機)と八幡市の安川電機に納入することに成功したのである。

(楓氏の親友が安川電機の専務であった)安川電機は隣に八幡製鉄があるのに態々神戸の川鉄製品を使用したものであった。

当時神戸の線材の月産は七千噸位だったと思う。その内極僅の三十噸を岩井商店に譲ることに成った。然し其代償としてその数量月三十噸だけ八幡製鉄の線材に割込むことが出来たのである。これが

其の後日商に大きなプラスに成ったことは他言を要しない。尚、神戸では各種の特殊線材も製作するに到りこれも又全部日商扱いと成ったので日商はこの種の線材の輸入を停止したのである。

かくて鉄材部員も増加され取扱高も年々拡大され事業発展の一途を辿り日商の発展に大いに貢献したのである。創立以来第一期より連続大本塁打で莫大な利益を挙げたのである。創立当時の日商大阪本社の五人の内終戦後昭和三十一年二月二十八日堀口菊蔵氏病没せられ、翌三十二年八月六日楓英吉氏も病没せられた。何れも社葬で以て遇されたのである。日商のみならず我国鉄鋼界も偉大な人材を失ったのである。極めて残念なことである。尚、土居増喜君も先年逝かれ今年の初夏国沢敏馬君も他界せられ日商創立当時の五人の内不肖私だけが生き長がらえて今尚頑健であるが誠に淋しい。また伊藤覚平氏も静岡県掛川市城西で元気に日本発条の製品を取扱っているのは誠に目出度い事である。

去る五十二年十月十四日の辰巳会例会の時多田神社で楓英吉氏の未亡人・喜和恵さんにお目にかか

ファイナルから宇宙海洋まで

〈総合化学メーカー〉

工業用油脂・油剤・石油化学品・食用油脂
天然調味料・特殊栄養補給用食品・高級特殊塗料
船舶用塗料・重防食塗料・過酸化物品・爆薬推進薬
無煙火薬・火工品・溶接棒・ロケット

ニッサン 日本油脂

本社/東京・有楽町(有楽町ビル)
TEL (03) 283-7070 (受付台)
支社/大阪 支店/札幌・名古屋・福岡

